

株価チャートをしつくりと観察していると、いくつかの特徴的なパターンが見えてくる。底値圏からの上昇初期のパターンや、反対に高値圏からの反落初期のパターンである。あるいは、上昇途中のパターンや下落途中のパターンである。

これらのパターンを「相場の定石」として心に銘記しておき、だからどういふ動きになったらどう建玉すべきなのかについて、すぐに行動に移せるようにしておく必要がある。これは「技術」であり、日々チャ

実学の株式投資技術の必要性 (14)

つてのみ修得できる「暗黙知」である技術を高めることはできない。
例えば、柱に鉋(かんな)をかける作業を例に挙げよう。大工さんはいとも簡単に綺麗な鉋かけをする。仕上がりはすべすべである。だが、我々素人がそれを実際にやってみると仕上がりはこつこつでそれは酷いものである。ここに技能の要素も含む技術の難しさがあら

暗黙知である技術は実際に自分で経験を積み重ねないと高めることはできないのである。頭の良い秀才タイプの人は本をたくさん読めば相場で儲かるようになるかと錯覚している節があるが、暗黙知の修得には読書

株価が3カ月から6カ月以上に渡って上昇を続ける。2点以上の安値を直線で結んだ上昇トレンドラインが引ける。このライン上で株価が上下している限りは買い玉を維持すべきである。しかし、やがてこの上昇トレンドラインを下げ抜くか、株価が高値を更新できない状態が長引き、株価が頭打ちになってくる。これが高値圏から反落するときの兆候である。

株価の反落がさらに続く。まず10日移動平均線を、次に25日移動平均線を下げつける。こうなると、買い玉は一旦すべて手仕舞いすべきタイミングであり、さらに押し進めて空売りすることも検討すべき局面である。この時、なぜ株価が下げているのか、その背景も理解しておくべきである。

「退屈な訓練」と「発見」を積み重ねる

ートと対話しながら訓練を積み重ねて高めるしかない。どんなに市販の本をたくさん読んで文字で伝えられる「頭在知」は高めることばかきても経験によ



根幹 三矢 淑徳大学 教授
愛知ビジネス

みつや・みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リーズ大学経営学大学院。MBA(Finance)。1966年生まれ。

よりもむしろ地道で「退屈な訓練」と「発見」の積み重ねがより重要であり、自分自身の勝ちパターンを身に付けることこそが相場技術の核である。しかし、ほとんどの人がそれに気が付かない。ここに大多数の個人投資家・トレーダーが通年で儲け続けることが難しい最大の理由がある。
さて、相場にはいくつかの重要な定石があるが、一番重要な定石は高値圏からの反落相場初期のパターンである。これが分かっているだけでも、売って逃がしてつかうの含み益を極に振つたり、或いは最悪のタイミングで買うという大失策を防止できる。
株価が3カ月から6カ月以上に渡って上昇を続ける。2点以上の安値を直線で結んだ上昇トレンドラインが引ける。このライン上で株価が上下している限りは買い玉を維持すべきである。しかし、やがてこの上昇トレンドラインを下げ抜くか、株価が高値を更新できない状態が長引き、株価が頭打ちになってくる。これが高値圏から反落するときの兆候である。
株価の反落がさらに続く。まず10日移動平均線を、次に25日移動平均線を下げつける。こうなると、買い玉は一旦すべて手仕舞いすべきタイミングであり、さらに押し進めて空売りすることも検討すべき局面である。この時、なぜ株価が下げているのか、その背景も理解しておくべきである。